

# とちぎの都市ビジョン概要版

現“とちぎの都市ビジョン（平成26(2014)年7月）”の目指すべき都市構造「とちぎのエコ・コンパクトシティ」の考え方を継承しながら、都市のスポンジ化や集落におけるコミュニティの維持等の新たな課題に的確に対応していく。

## I 都市が抱える現状と問題等

### 1 人口減少・超高齢社会への対応

#### (1) 都市機能の低下と市街地中心部の活力低下

##### 【現状】

- ・人口密度の希薄化による都市機能の利用者減少
- ・都市機能の維持困難・利便施設の撤退
- ・住宅や商業施設の郊外立地による、市街地中心部の人口減少と空き家等の増加
- ・電子商取引（EC）の市場拡大やライフスタイルの多様化等による販売効率の低下
- ・空き家・空き地等のランダムな発生（都市のスポンジ化）

##### 【問題点】

- ・日常生活の利便性の低下
- ・市街地中心部の魅力や活力の更なる低下

#### (2) コミュニティの維持困難

##### 【現状】

- ・著しい人口減少と空き家・空き地の増加
- ・都市機能や公共交通などの日常生活サービスの低下

##### 【問題点】

- ・地域コミュニティの維持が困難となる地域の増加

#### (3) 交通ネットワークの維持困難

##### 【現状】

- ・自動車交通への高い依存
- ・公共交通利用者の減少と公共交通サービスの利用率の低下
- ・運行効率の悪化と公的費用負担増加

##### 【問題点】

- ・利用率等の低下による公共交通の衰退
- ・交通弱者の増加

#### (4) 都市経営コストの増加

##### 【現状】

- ・社会保障費や公共交通維持費の増加
- ・税収の減少による予算確保困難
- ・インフラの老朽化と維持管理費の増加
- ・都市の拡大等による物流体系の非効率化

##### 【問題点】

- ・社会資本投資や公共交通の維持に対する制約
- ・物流負担の増加による社会経済や環境への悪影響

### 2 災害への対応と地球環境との調和

##### 【現状】

- ・気候変動に伴う自然災害の頻発化、激甚化
- ・開発に伴う農地や平地林の減少
- ・自動車交通への高依存などに伴うCO<sub>2</sub>の排出量増加

##### 【推進すべきこと】

- ・災害に強い都市構造の形成
- ・防災・減災に配慮した土地利用
- ・農地等の保全と農林業との共生
- ・都市活動の効率化によるCO<sub>2</sub>排出量の削減

### 3 とちぎの魅力や強みの有効活用

##### 【現状】

- ・東京圏に近接し、充実した広域道路網が形成
- ・東京オリンピックなどを契機としたインバウンド需要の拡大

##### 【推進すべきこと】

- ・広域物流基盤等を活用した新たな産業の立地促進
- ・世界遺産日光など豊富な地域資源や観光拠点の連携

## II 都市づくりの課題と方向性

### 【役割に応じた拠点づくりの強化】

- ・拠点の役割に応じた都市機能の集積と利便性の向上
- ・街なかへの居住（集住）の誘導による人口密度の維持・向上
- ・拠点形成における防災・減災への配慮
- ・多様なライフスタイルの受け皿としての居住を誘導しない地域の維持
- ・中山間地域における生活サービス機能が確保された「小さな拠点」づくり

### 【交通ネットワークの強化】

- ・拠点地区間や拠点地区内の公共交通ネットワークの更なる充実
- ・都市機能や居住を誘導する施策と一体となった効率的で効果的な交通ネットワークの構築
- ・高齢者を含む誰もが安全でスムーズに移動できる交通ネットワーク環境の整備
- ・ゲリラ豪雨や大規模地震等の自然災害に備えた道路ネットワーク等の強化による広域連携

### 【都市経営の効率化】

- ・公共投資の選択と集中、既存ストックの活用や健康まちづくりの推進などによる都市経営コストの縮減
- ・自動車交通への高い依存や末端物流の増加による環境コストや配送コストの増加に対応するため、公共交通への転換や末端物流の効率化

### 【新技術の活用】

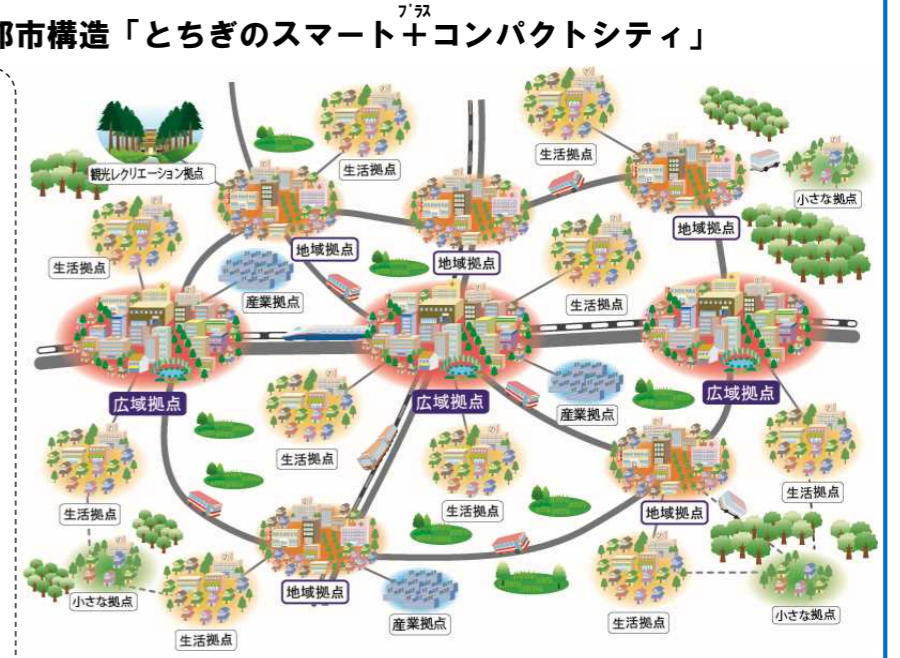
- ・都市活動におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減、省エネルギー化の促進、拠点形成及び交通ネットワークの強化、都市経営の効率化など、様々な都市の課題への取組を推進するため、ICTや自動運転等の新技術を活用するスマートシティについて、技術革新なども踏まえ柔軟に導入

### 【とちぎの魅力や強みを活かした都市づくり】

- ・歴史的資源や自然環境、豊富な観光資源の有効活用
- ・首都圏北部に位置する地理的優位性や高速道路・新幹線等の広域交通基盤を活かした産業振興
- ・農地が有する交流・レクリエーションや農業学習・体験などの多面的な機能に着目した、市街地内農地の保全と活用

## III 目指すべき都市構造「とちぎのスマート+コンパクトシティ」

- 必要な都市機能を集積した拠点地区を形成し、街なか居住を促進
- 効率的な公共交通ネットワーク等の形成や利用環境の充実により、誰でも自由に移動できる都市づくりを推進
- 公共投資の選択と集中や既存ストックの有効活用、健康まちづくりの推進などにより、スマートに都市経営を効率化
- 拠点形成や交通ネットワークの強化、都市経営の効率化などを推進するため新たな技術を活用するスマートシティを導入
- 豊富な地域資源や地理的優位性を活かし、魅力的で個性ある都市づくりや産業の集積による活力ある都市づくりを推進



「とちぎのスマート+コンパクトシティ」のイメージ

## IV 実現に向けた基本目標と基本姿勢

### ■都市づくり基本目標(1)：誰もが暮らしやすくコンパクトな都市づくり

- ・戦略(1)-① 日常生活に必要な都市機能の集積の促進
- ・戦略(1)-② 街なかへの居住（集住）の誘導と多様なライフスタイルへの対応
- ・戦略(1)-③ 空き家等の既存ストックの有効活用
- ・戦略(1)-④ 都市の防災・減災機能等の強化
- ・戦略(1)-⑤ 既存集落における小さな拠点の形成

### ■都市づくり基本目標(2)：誰もが安全でスムーズに移動できる都市づくり

- ・戦略(2)-① 地域交通の強化と広域連携の促進
- ・戦略(2)-② 都市機能や居住誘導と合わせた効率的な交通ネットワークの再構築
- ・戦略(2)-③ 徒歩や自転車等による移動性の向上

### ■都市づくり基本目標(3)：持続可能で効率的な都市づくり

- ・戦略(3)-① 公共投資の選択と集中
- ・戦略(3)-② 既存ストックの有効活用
- ・戦略(3)-③ 健康まちづくりの推進

### ■都市づくり基本目標(4)：新技術を活用した環境にもやさしいスマートな都市づくり

- ・戦略(4)-① 環境負荷の少ない都市づくりの推進
- ・戦略(4)-② 地域内交通への自動運転技術等の活用
- ・戦略(4)-③ 物流システムの効率化や末端物流への新技術の活用
- ・戦略(4)-④ インフラの維持管理等への新技術の活用

### ■都市づくり基本目標(5)：とちぎの魅力や強みを活かした都市づくり

- ・戦略(5)-① 地域資源を活かした魅力的で個性ある都市づくり
- ・戦略(5)-② 恵まれた立地環境や優れた交通ネットワークを活かした産業の振興
- ・戦略(5)-③ 都市と調和する農地等を活かした多機能な空間の創出

### ■都市づくり基本姿勢(1)：医療や福祉、産業、環境など各種政策と連携した都市政策の展開

### ■都市づくり基本姿勢(2)：多様な主体と協働・連携した都市づくり

### ■都市づくり基本姿勢(3)：都市のマネジメント



## IV 「とちぎのスマート+コンパクトシティ」の実現に向けた基本目標と基本姿勢

### ■都市づくり基本目標(1)

#### 誰もが暮らしやすくコンパクトな都市づくり

- 日常生活に必要な都市的サービスを誰もが受けられるよう、拠点の規模や役割に応じた都市機能の集積を図りつつ、街なかへの居住(集住)を誘導し、暮らしやすくコンパクトな都市づくりを推進する
- 市街地においては都市のスポンジ化へ対応し、郊外部においては市街地の無秩序な拡大につながる開発を抑制しつつ、既存集落の維持を図る

#### 戦略(1)-① 日常生活に必要な都市機能の集積の促進

拠点の規模や役割に応じた都市機能の集積・誘導、エリアマネジメントの導入

#### 戦略(1)-② 街なかへの居住(集住)の誘導と多様なライフスタイルへの対応

拠点地区への居住の誘導、多様な地域性に配慮したコミュニティ維持

#### 戦略(1)-③ 空き家等の既存ストックの有効活用

都市のスポンジ化への適切な対応

#### 戦略(1)-④ 都市の防災・減災機能等の強化

災害の予防や発生時における応急対策を考慮した土地利用

#### 戦略(1)-⑤ 既存集落における小さな拠点の形成

既存集落における日常生活機能と交通ネットワークの維持

### ■都市づくり基本目標(2)

#### 誰もが安全でスムーズに移動できる都市づくり

- 広域拠点、地域拠点、生活拠点、小さな拠点となる各拠点地区間を、公共交通を基本に地域のニーズに応じた交通ネットワークにより連携を強化し、合わせて拠点地区内の交通ネットワークも充実させる
- 歩行者や自転車等の利用環境を向上し、自動運転等の新技術や施策を導入することで、高齢者や障害者をはじめ誰もが安全でスムーズに移動できる都市づくりを促進する

#### 戦略(2)-① 地域交通の強化と広域連携の促進

拠点地区間を結ぶ公共交通ネットワークを主体とする地域交通の充実・強化を支援し、各拠点地区が有する都市機能の連携を促進

#### 戦略(2)-② 都市機能や居住誘導と合わせた効率的な交通ネットワークの再構築

地域の状況に応じたLRTやBRT、自動運転技術、地域共助型生活交通等の交通手段の導入、効率的で効果的な交通ネットワークの再構築による公共交通サービスの維持

#### 戦略(2)-③ 徒歩や自転車等による移動性の向上

歩道や公共交通機関等のバリアフリー化や自転車の利用環境の充実、パーソナルモビリティ等の導入により、安全でスムーズに移動が可能な都市づくりの促進

### ■都市づくり基本目標(3)

#### 持続可能で効率的な都市づくり

- 集約型の都市構造の形成に向けた都市機能の再配置や効率的な利活用、公共投資の選択と集中、既存ストックの有効活用などにより都市経営コストの低減化を図る
- 健康まちづくりの推進などによりスマートに経費を縮減し、持続可能で効率的な都市づくりを促進する

#### 戦略(3)-① 公共投資の選択と集中

都市機能の再配置や効率的な利活用、公共投資の選択と集中などによる効率的な都市経営

#### 戦略(3)-② 既存ストックの有効活用

市街地に存する既存ストックの有効活用や公共施設等の再編・集約、各拠点の連携強化による都市機能の相互補完、既存の都市基盤施設の長寿命化を図るなど適切な維持管理

#### 戦略(3)-③ 健康まちづくりの推進

徒歩等で移動可能な範囲内における都市機能の確保、安全で安心して利用できる歩行環境の確保、公共交通の利用環境の向上による高齢者等の外出機会の増加や社会参加の促進とそれによる地域コミュニティの活性化

### ■都市づくり基本目標(4)

#### 新技術を活用した環境にもやさしいスマートな都市づくり

- エネルギー需給の変化や地球規模での環境問題や拠点形成、都市経営の効率化など様々な課題を賢く解決するため、新たな技術を取り入れるなど、持続可能な開発目標(SDGs)の理念を踏まえ、持続可能で人にも環境にもやさしいスマートな都市づくりを促進する

#### 戦略(4)-① 環境負荷の少ない都市づくりの推進

都市機能の集約・公共交通の利用促進によるエネルギー消費の抑制、未利用・再生可能エネルギーや、省エネ技術・情報通信技術などを活用したスマートシティの導入、都市部における緑化の推進や郊外部における林地や農地、水辺地等の緑地の保全

#### 戦略(4)-② 地域内交通への自動運転技術等の活用

自動運転やパーソナルモビリティ、デマンド交通や乗り合いタクシー等の様々な交通手段の検討と交通結節点におけるITS技術等を活用した円滑な乗換による公共交通の維持・充実

#### 戦略(4)-③ 物流システムの効率化や末端物流への新技術の活用

荷捌き施設の整備、共同集配施設や管理・運用システムの検討、中山間地域における集荷・配送機能の拠点の設置、無人航空機(ドローン)や自動運転技術等を活用した新たな輸送システムの導入

#### 戦略(4)-④ インフラの維持管理等への新技術の活用

インフラ点検における無人航空機(ドローン)やロボットを活用した効率的な維持管理と、防災・減災等への新技術の活用

### ■都市づくり基本目標(5)

#### とちぎの魅力や強みを活かした都市づくり

- 大企業や技術力の高い中小企業が集積した全国有数の「ものづくり県」、地域性豊かな農業生産を展開する「首都圏の食料生産基地」、歴史的な魅力ある観光資源や、豊かな自然環境などを保有する県として、とちぎの魅力や強みを更に活かした都市づくりを進める

#### 戦略(5)-① 地域資源を活かした魅力的で個性ある都市づくり

豊かな自然環境や魅力ある地域資源の活用や、観光地へのアクセシビリティや周遊性の向上による観光の振興、県内外との交流人口増加によるとちぎの魅力や活力の向上

#### 戦略(5)-② 恵まれた立地環境や優れた交通ネットワークを活かした産業の振興

優れた交通ネットワークを活かした新たな産業集積地の形成や既存産業基盤の維持・充実による産業の活性化、優良農地等の保全や集約による農業の振興

#### 戦略(5)-③ 都市と調和する農地等を活かした多機能な空間の創出

農地と居住環境の調和、都市内農地の交流・レクリエーションや教育・学習の場等としての保全・活用

### 都市づくり基本姿勢

#### (1) 医療や福祉、産業、環境など各種政策と連携した都市政策の展開

医療や福祉政策、商工業・農林業などの産業政策、教育や文化政策、環境政策、交通政策等と連携し、店舗や病院などの多様な都市機能の集積や産業振興・企業誘致、地球環境の保全、都市景観の形成などを進める総合的かつ戦略的な政策の展開を図る。

#### (2) 多様な主体と協働・連携した都市づくり

地域のニーズに応じた都市機能の集積や都市的サービスの提供を将来にわたって行うために、積極的な住民参加を促し、また適正な情報の提供を行いながら、県民、NPO、企業、大学、行政などの多様な主体と協働・連携した都市づくりを進める。さらに、それぞれの役割と責任を明確化しながら、一体的に事業を推進していくための仕組みづくりや、主体的にまちづくりを進める人材の育成に取り組む。

#### (3) 都市のマネジメント

都市計画基礎調査等を実施し、現状の分析や課題整理、都市の評価を行った上で、目指すべき市街地像を設定し、さまざまな手法により実現するとともに、将来にわたって持続可能な都市づくりのため、時間軸を考慮したマネジメントの導入を推進する。

【参考】スマートシティの導入イメージ図

